

◎家電激戦地「南京」

中国では消費が伸びているといっても、それをうまくつかまえて商売に勝ち残っていくことは容易ではない。それだけ中国の消費市場は激戦であり、「仁義なき叩きあい」を勝ち残らなければ「中国市場」の恩恵に浴することはできないのである。

江蘇省の首都「南京」は、一人当たりGDPが約1万2千ドルに達し、市内には地下鉄が縦横に走り、また、ちょうど東京が銀座や新宿等複数の繁華街を抱えているように、新街口や山西路等複数の繁華街を抱えた大都市となっている。市の北部にある昔からの「南京駅」(上海-南京新幹線が発着)と、南部には新しくできた北京-上海新幹線の「南京南駅」に挟まれる形で市街地の発展に広がりが出てきているのだ。

南京には、中国最大の家電販売店「蘇寧電器」の本部があるが、そのいわばおひぎ元に今年3月、日系の大型電器店が進出した。場所は南京最大の繁華街「新街口」の中心部であり、床面積1万6千㎡、地上7階建ての大型店である。店舗の中は、中国流の「ブランドごとの配列」(例えばサムスンならサムスンの商品だけが固まって置いてある売り方)ではなく、日本流の「商品ごとの配列」(例えば髭剃り売り場ならそこにブラウンもフィリップスもパナソニックも置いてある売り方)である。



↑ 中央に日系の大型電器店。手前の黄色い看板は「蘇寧電器」

店舗の中を見ると、日本の量販店では売っていないような商品（例えば太陽温水器やマンション内装設計工事カウンター）等もあるものの、売り場面積の多くを日系メーカーの商品が占めており、蘇寧で幅を利かせている SAMSUNG や美的、格力等の中国製品がさほど目立たないのに気づく。また、店員の呼び込みもそれほどでなく、こちらから声をかけるのを待っている「やや控え目」の接客に心がけている印象を受けた。

中国では、電器製品についてもメーカーの数が多く、それぞれ価格帯も異なり信用度も異なる傾向があるため、最初から自分の財布や製品品質に対する要求水準を前提に一定のブランドを念頭において買い物する消費者が多いとされる。更に、売り場の販売員も多くがメーカーからの派遣、あるいはメーカーからのリベートを前提にしているので、自分に関係するブランド以外の製品をお客に勧めることはまずあり得ない。ただ、若年層になればなるほど、ネットや口コミ等を通じて豊富な商品情報を持つようになり、日本流の「比較購買」（同じ商品について複数のブランドを見比べて購買すること）が増えてくる。日系量販店の試みは、こうした動きを先取りしたものと言えるだろうが、現実にはまだ消費者の側にも戸惑いがあるようで、少なくとも店頭のお客の入りを見る限り、開店後 2 カ月を経た現段階で「順調なスタートを切った」とまではいいにくい状態のように感じた。

ただ、中国の量販店「蘇寧電器」の側も、こうした消費者の変化を先取りする形で、買収した「ラオックス」店舗の第一号店を昨年 12 月、南京市内に開業し、そこでは日本流の「商品ごとの配列」を行い、また、日本流の接客を行っている。ただ、こちらも現状では店舗の人の入りはやや閑散としており、「蘇寧」の力をもってしてもこうした販売方式が消費者に定着するまでには至っていないように感じた次第である。

中国では、消費下支えのため、5 月 16 日の国務院常務会議において「省エネ製品」に対する購買支援措置をとることが発表された。家電量販店どうしの熱い商戦はこれからが本番となるだろう。省エネ性能に優れた日本製家電業界は、このチャンスをうまく活かせるかどうか中国市場で「復権」できるかどうかの天王山となりそうだ。



←蘇寧傘下に入ったラオックス南京 1 号店

◎各地方の18回党大会代表が続々決定

今年下半期に開催されることとなっている5年に一度の中国共産党全国代表大会（今回は第18回なので、「第18回党大会」）の代表が続々と決定しつつある。同大会には全国から合計で2270名の代表が参加することになっており、6月末までに各省市が代表を選出することになっているところ、既に4月19日に貴州省が38名、26日に河北省が62名、28日に海南省が28名、甘粛省が39名の代表を選出、また5月には11日に陝西省が43名、13日には広東省が汪洋書記を含む69名（うち中央指名は汪洋氏及び国務院香港マカオ弁公室主任の廖暉氏の2名、残り67名は85名の「候補者」から差額選挙により選ばれた）の代表を決定した。次いで翌14日は江蘇省で胡錦濤総書記（全票獲得当選）、羅志軍江蘇省書記を含む70名が、また、18日には新疆ウイグル自治区で周永康政治局常務委員及び張春賢新疆ウイグル自治区書記を含む42名が、また遼寧省で63名が、更に22日には上海市で習近平政治局常務委員及び俞正声上海市書記を含む72名が代表として選出されている。

注目の重慶市だが、当初5月末に予定されていた代表選出が6月に繰り延べになっているものの、前書記の薄熙来氏の名前は候補者名簿にすら含まれていないことが既に明らかになっており、改めてその失脚を印象付けている。

（重慶市代表候補者名簿リンク⇒<http://cq.qq.com/a/20120522/000195.htm>）

西側メディアの中には、薄熙来氏の処分結果の発表時期を7月と見る者が多く、実際、すべての代表が出そろった後、人事の最終調整が行われる北戴河会議（7月下旬～8月上旬とされる）の前に本問題には最後の決着が下されるとする予想は合理性がありそうだ。なお、これに関連して、薄熙来氏の下で実務を担ってきた黄奇帆重慶市長は、薄書記が2月に王立軍副市長・公安局長を解任した会議の場で、「『王立軍公安局長の解任には中央の承認が必要であり、重慶市が独断で解任すべきでない』と薄書記に進言したため、薄書記の逆鱗に触れ、解任の決議に参加させてもらえなかった」と語っていると報道されている（22日付け South China Morning Post）。なお、黄市長は現時点で重慶市の18回党大会代表名簿にしっかりと残っている。

ちなみに、日本のメディアの中には、党大会の開催が越年するとしているところもあるが、仮に越年する場合には党大会開催年の6月30日時点で67才以下との年齢制限も1年繰り下がることになるため、1945年4月生まれの俞正声上海市書記が資格を失うことになる。事は単純に会議開催時期だけの問題にとどまらない点に特に留意が必要であろう。



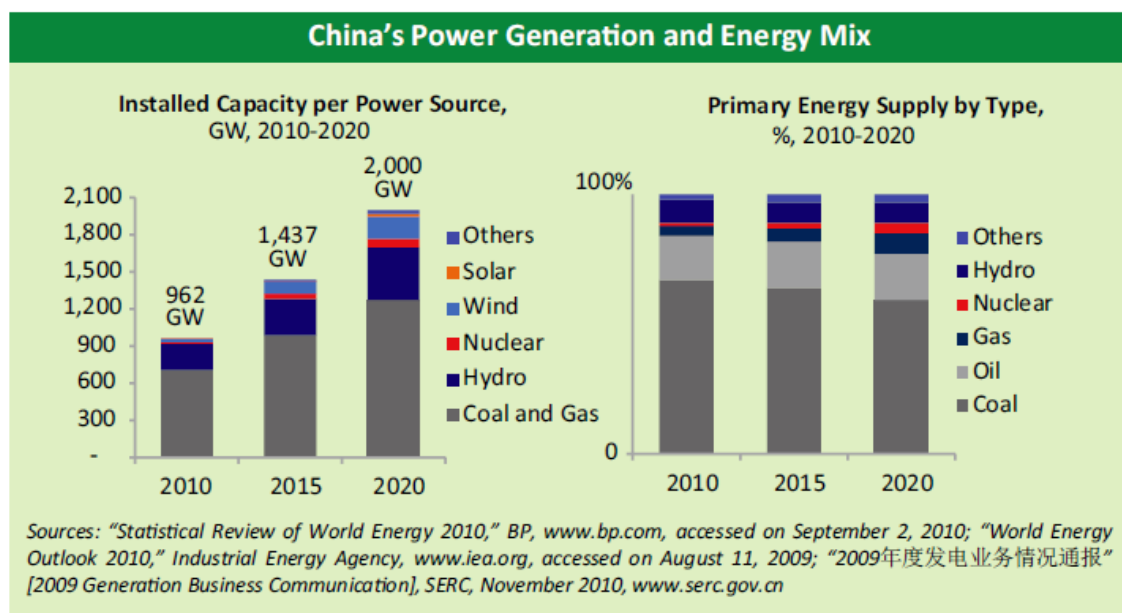
←前回（2007年）の「17大」の様子。

◎中国の第12次五カ年計画期間中におけるエネルギー政策

中国のエネルギー政策は既に昨年発表された第12次五カ年計画において大筋明らかになっているが、その後、担当省庁が具体的な目標を逐次発表する等しており、しっかりフォローしていないと正確に現状を理解することは難しい。前回（ウィークリーChina No.45）でご紹介したアメリカ系のコンサル「China Greentech Initiative(CGTI)」が発行した「China Greentech Report 2012」はこうした基礎的な指標をアップデートしているので、その中で主な数字を改めて転載してご紹介したい。

① 石炭依存度の低下

中国のエネルギー政策の柱の一つは石炭依存度の低下である。発電部門における石炭依存度は71%（2011年）であるが、これを2015年までに66%に低下させるとしている。（下図）ただし、それでも発電需要全体の伸びが大きいため、5年間で274GW（百万kW級原子力発電所274か所分）の石炭発電所を建設する必要がある。ちなみにこれはほぼ全米の石炭火力発電所能力と同じであるようだ。



② 再生可能エネルギーの導入強化

中国は既に世界最大の風力発電大国であるが、今後2020年までにその能力を3倍以上とすることになっている。具体的には現在62GWの発電能力を2015年までに100GW、2020年までに200GWとし、特に将来的には海上発電と陸上発電の比率を1:1にしていく目標を持っているという。

また、太陽光発電は、中国は生産量としては世界一だがそのほとんどが輸出向けで、導入量は現状では2GWにとどまっている。海外における太陽光発電補助政策の見直しや、アメリカによる相殺関税問題に直面している中国の太陽光発電だが、2015年までに15GW、2020年には50GWの国内導入目標を掲げている。

他には、水力が今後チベット、雲南、四川における開発を進めることにより2020年まで

に現状の約 2 倍の 400GW、更に南部地域向けにミャンマー国内に水力発電所を設置し中国が売電するプロジェクトを進めている。(ミッソンドムの建設中止がメディアで話題になったが、他の 6 基のダムプロジェクトはその後も順調に推移している。)

これに比べると控えめに見えるものの、原子力発電についても、福島原子力発電所の事故後未だに新プロジェクトの認可はなされていないとはいえ、2015 年までに 40GW、2020 年までに 70GW という目標も維持されている。

③ エネルギー輸送能力の強化

中国は国土が広大であり、エネルギーの産地と消費地も離れているため、輸送能力の強化が極めて重要である。そのため、鉄道貨物輸送能力の半分を占めている石炭輸送のためのインフラ整備 (内陸向けの内蒙古-武漢石炭鉄道等)、ガスパイプラインの整備 (2015 年までに 6.5 万 km を新設し、合計 10 万 km とする)、超高压送電 (2015 年までに 3 万 km を新設) 等が進められている。

こうした中で、CGTI は、欧米企業が中国の環境エネルギー市場で得られそうな市場チャンスについて以下のように分析している。

Top Market Opportunities for 2012

This year, CGTI has taken a different overall approach to identifying market opportunities, looking more at individual technologies instead of evaluating sector attractiveness. This report, in the sector chapters that follow, briefly summarizes a small subset of the most important opportunities identified in the 2011 Partner Program, and they cover a broad range:

- **Cleaner Conventional Energy:** Natural gas infrastructure, distributed gas power, power plant mercury monitoring and control, coal-bed methane, and advanced nuclear power.
- **Renewable Energy:** Moving photovoltaic module production overseas, retrofitting wind turbines for higher output, and biogas production.
- **Electric Power Infrastructure:** Intermittent power management, distributed energy management, energy storage, charging infrastructure, and grid communication networks.
- **Green Buildings:** Green building design, building energy retrofits, green building material supply, integrated energy efficiency solutions, and green building energy management.
- **Cleaner Transportation:** Advanced drivetrains, battery raw material supply, and commercial vehicle emission control systems.
- **Clean Water:** Wastewater and sludge treatment, water-use efficiency equipment, and water-quality monitoring technologies.

なお、CGTI の上記レポートについては、在上海アメリカ商工会議所 (Amcham Shanghai) にて 6 月 7 日に説明会 (英語・有料) が開催される。アメリカ商工会議所会員以外でも参

加可能であり、日本企業と異なる視点を得られるチャンスでもあるので、興味のある方は参加を検討されてみるのもよいのではないだろうか？

<http://www.amcham-shanghai.org/AmChamPortal/Event/EventDetail.aspx?EventId=5116>

◎ 国务院常务会议開催状況

5月23日 ・ 経済情勢の分析を行った。
— 経済運営の中で、下向きの圧力が増大していることを指摘。
— 冷静に動向を観察し、沈着に対応するとともに、雨が降る前にカサを準備して、しっかりと経済運営の主導権を握っていかなければならない。
— 経済発展、経済構造転換及びインフレの3つの問題をうまく調和させつつも、経済発展により大きな位置を与えなければならない。政策の適切性、迅速性をより高め、内需拡大に向けた積極的な措置を取らなければならない。

なお、温家宝総理は上記常务会议の開催に先立って18～20日にかけて湖北省を視察、周辺省の指導者も交えて座談会を開催している。



← 武漢鋼鉄を視察する温総理。

ちなみに、本件に関連して、世銀(World Bank)は23日、「East Asia and Pacific Economic Update, May 2012 - Capturing New Sources of Growth」(下記 URL) を発表し、2012年の成長率予測をこれまでの8.4%から8.2%に引き下げた。ただし、中央政府及び中央銀行が適切な経済政策をとれば、経済成長は回復し、2013年には8.6%と成長回復を見込むとしている。その際、これまでのような投資に依存するのではなく、金融政策を通じた消費刺激策を採るべきであると提言している。

<http://siteresources.worldbank.org/INTEAPHALFYEARLYUPDATE/Resources/550192-1337701176079/eap-update-may-2012-full-report.pdf>

また、まだ少し先の話だが、第二四半期のGDPは8%を切り7.8～7.9%あたりまで減速すると見ている人が多いようだ。(第一四半期は8.1%)

China Key Indicators

	2009	2010	2011	2012f	2013f	2011				2012		2011				2012			
	Year	Year	Year	Year	Year	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Dec	Jan	Feb	Mar	Apr				
Output, Employment and Prices																			
Real GDP (% change y-y)	9.2	10.4	9.2	8.2	8.6	9.7	9.5	9.1	8.9	8.1				
Industrial production index /1 (% change y-y)				
Unemployment (%) 2/	4.3	4.1	4.1	4.1	..	4.0	4.0				
Real wages (% change y-y)	12.4	9.7				
Consumer price index (% change y-y)	-0.7	3.3	5.4	3.2	3.6	7.1	6.9	..	2.6	4.4	4.1	4.5	3.2	3.6	3.4				
Public Sector																			
Government revenues (% GDP)	20.1	20.7	22.0	22.1	22.2				
Government expenditures (% GDP)	22.4	22.4	23.1	23.9	23.7				
Government balance (% GDP)	-2.8	-1.7	-1.1	-1.9	-1.5				
Domestic public sector debt (% GDP) /3	17.7	16.8	20.0				
Foreign Trade, BOP and External Debt																			
Trade balance (billions US\$)	198.2	184.5	157.9	-0.7	46.7	62.9	73.2	76.0	16.5	27.3	-31.5	5.3	18.4				
Exports of goods (billions US\$)	1,202.0	1,578.4	1,899.3	399.7	474.8	518.3	331.6	339.8	174.7	149.9	114.5	165.7	163.2				
(% change y-y) 4/	-15.9	31.3	20.3	26.4	22.0	20.7	26.2	22.2	13.3	-0.5	18.3	8.8	4.9				
Key export (% change y-y) 5/	-15.7	31.4	20.2	26.1	21.9	..	26.9	22.4	13.1	-0.5	17.4	10.0	..				
Imports of goods (billions US\$)	1,003.9	1,393.9	1,741.4	400.4	428.1	455.4	258.3	263.7	158.2	122.7	146.0	160.3	144.8				
(% change y-y) 4/	-11.3	38.9	24.9	32.8	23.1	24.9	20.7	25.4	12.1	-15.0	40.3	5.4	0.3				
Current account balance (billions US\$)	297.1	305.4	201.1	245.0	315.0				
(% GDP)	6.0	5.2	2.7	3.0	3.3				
Foreign direct investment (billions US\$) /6	94.1	105.7	116.0	30.3	30.6	..	17.2	30.3	12.2	10.0	7.7	11.8	8.4				
External debt (billions US\$)	428.6	548.9				
(% GDP)	8.6	9.3				
Short-term debt (billions US\$)	259.3	375.7				
Debt service ratio (% exports of g&s)	2.87	1.6				
Foreign exchange reserves, gross (billions US\$)	2,405.7	2,853.8	3,187.6	3,606.0	4,086.0	3,051.3	3,204.1	..	1,440.2	1,534.8	3,187.7	3,260.2	3,316.3	3,311.6	..				
(months of imports of g&s)	18.1	15.6	22.0	91.5	89.8	..	66.9	69.8	20.2	26.6	22.7	20.7	..				
Financial Markets																			
Domestic credit (% change y-y)	31.7	19.9	14.3	17.9	16.9	..	17.1	16.1	15.8	15.0	15.2	15.7	15.4				
Short-term interest rate (% p.a.) 7/	2.8	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3				
Exchange rate (RMB/US\$, eop)	6.83	6.62	6.30	6.57	6.48	6.38	6.33	6.31	6.30	6.31	6.29	6.29	6.28				
Real effective exchange rate (2000=100)	104.7	109.1	116.1	107.0	106.7	..	98.4	97.7	116.1	115.3	116.0	115.2	..				
(% change y-y)	-5.0	4.2	6.3	1.7	-1.5	..	5.1	4.5	6.3	7.4	5.5	7.6	..				
Stock market index (Dec. 19, 1990=100)/8	3,277	2,808	2,199	2,928.1	5,552.3	5,261.6	2,199.4	2,292.6	2,428.5	2,262.8	2,199.4				
Memo: Nominal GDP (billions US\$)	4,990.5	6,031.8	7,451.9				

↑ 世銀レポート「East Asia and Pacific Economic Update, May 2012 - Capturing New Sources of Growth」より。

(付録)

第一四半期各省市経済成長率及び変化率 (財新網より)

省份	2012年一季		2011年一季		增速变动 (百分点)
	GDP (亿元)	增速 (%)	GDP (亿元)	增速 (%)	
西藏	132.74	11.4	115.43	19.8	-8.4
福建	3311.67	10.9	2930.73	14.5	-3.6
浙江	6724.64	7.1	6311.24	10.4	-3.3
广东	11510.80	7.2	10549.74	10.5	-3.3
黑龙江	2461.30	9.1	2180.00	12.0	-2.9
辽宁	4811.74	10.2	4246.19	12.8	-2.6
山西	2494.07	10.3	2200.87	12.8	-2.5
内蒙古	2704.34	11.2	2391.71	13.7	-2.5
江西	2455.54	11.0	2160.68	13.0	-2.0
湖北	4233.88	12.4	3592.36	14.4	-2.0
湖南	4218.98	11.9	3646.60	13.9	-2.0
海南	652.60	8.0	575.53	10.0	-2.0
重庆	2523.87	14.4	2061.11	16.3	-1.9
四川	4943.28	13.1	4257.59	15.0	-1.9
天津	2582.60	14.7	2256.51	16.5	-1.8
江苏	10881.46	9.8	9902.13	11.6	-1.8
云南	1991.61	10.8	1739.08	12.5	-1.7
北京	3761.52	7.0	3508.97	8.6	-1.6
河北	4919.97	9.7	4396.11	11.2	-1.5
上海	4593.85	7.0	4327.63	8.5	-1.5
安徽	3289.35	12.3	2843.23	13.8	-1.5
山东	10089.06	9.7	9049.63	11.0	-1.3
青海	322.00	11.4	288.14	12.3	-0.9
广西	2546.72	11.5	2247.86	12.1	-0.6
陕西	2755.72	13.0	2343.43	13.6	-0.6
新疆	1048.95	11.2	920.50	11.5	-0.3
吉林	1972.46	12.4	1707.97	12.7	-0.3
贵州	1071.25	14.7	849.75	14.8	-0.1
河南	6428.70	11.3	5615.44	10.8	0.5
甘肃	1012.95	12.5	883.07	10.8	1.7
宁夏	385.86	12.0	334.99	9.7	2.3

图表制作：财新网 (<http://www.caixin.com/>) 数据来源：天相